

桐生市議会 公共施設のあり方等調査特別委員会 行政視察報告書

視察都市	東京都 千代田区 (人口 69,139 人 : 令和 8 年 1 月 1 日現在)
視察日時	令和 8 年 1 月 29 日 (木) 午前・午後 10 時 30 分～午前・午後 12 時 00 分
視察項目	・「千代田区立日比谷図書文化館について」

◎視察概要

視察項目 ・「千代田区立日比谷図書文化館について」

○司会：千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

○説明・解説

千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 森 凜太郎 様

千代田区 地域振興部 文化振興課 文化財係 山田 将之 主任学芸員

千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

千代田区立 日比谷図書文化館 藤沢 雄一 副館長

千代田区立 日比谷図書文化館 図書サービス部門 小野口 史恵 図書部門長／司書

1. 指定管理者制度について

千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長より

- 千代田区の場合、平成 19 年に現在の区役所を建て替えるにあたり、旧庁舎のなかに元々古い図書館が入っていたので、新しい庁舎においても図書館を入れるという方針で建設を進めた。平成 19 年にオープンする際に指定管理者を導入した。

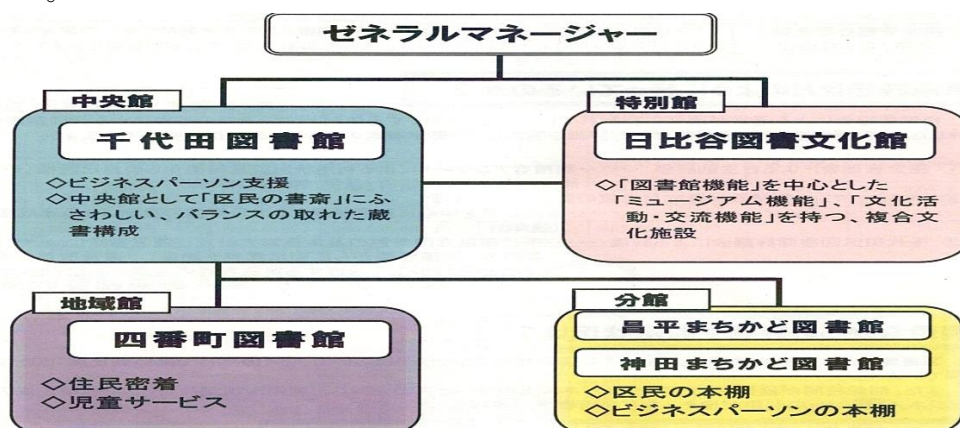
(※上記の図書館とは、千代田区役所内にある千代田図書館のこと)

区立図書館への指定管理者制度導入経緯

平成15年4月	区庁舎建て替え実施方針の策定	国立情報学研究所へ図書館のあり方に関する調査委託を行い、「新千代田図書館調査研究報告書」(16年2月)を受け、調査研究・問題解決サポート型図書館の位置づけ、デジタル化、レファレンス高度化、出版・書店業界・区内大学図書館との連携協力等の機能的方向性を示す。
平成16年5月	「新千代田図書館の整備に関する素案」作成	
平成16年8月	新千代田図書館運営等検討会設置	指定管理者制度導入のメリットとして以下3点が挙げられた。 ①住民サービスの向上 ②専門的人材の確保、人材の効率的配置等人的資源の整備 ③財務的側面
平成17年2月	区立図書館における指定管理者制度導入に関する研究会発足	
平成17年7月	「新千代田図書館基本構想」策定	
平成18年2月	千代田区立図書館整備基本計画策定	選定のポイントは以下のとおり。 ①指定管理者制度の理解度と経営方針 ②サービス向上のための新規サービス等業務・サービスの提案内容 ③業務の運営体制 ④業務の継続性と経営の安定性 ⑤業務実績 ⑥企画力、意欲等
平成18年3月	千代田区立図書館における指定管理者制度導入について(報告)	
平成18年6月	第2回定例区議会にて区立図書館への指定管理者制度導入を定めた千代田区図書館条例を制定	
平成18年7月	5事業者からの応募を受付	
平成18年9月	「千代田区立図書館指定管理者候補者選定委員会」において、指定管理者候補者として「ヴィアックス・SPSグループ」を決定	
平成19年4月	指定管理者による区立図書館(千代田、四番町、昌平まちかど、神田まちかど)運営開始(～24年3月)	
平成19年5月	5/7 新・千代田図書館開館	
平成20年10月	東京都と千代田区で、都立日比谷図書館の移管合意	

平成21年1月	「(仮称)日比谷図書館・文化ミュージアム基本構想」策定	文化財等を活用した、出版物に限定されない広範な文化資源の発信拠点を目指す図書館として位置付けられた。指定管理者の選定については、事業者による具体的な事業計画を設計に反映するため、指定管理を前提とした運営事業者の選定を行うこととした。
平成21年4月	「(仮称)日比谷図書館・文化ミュージアム基本計画」策定	
平成21年6月	「(仮称)日比谷図書館・文化ミュージアム運営事業者候補者選定委員会設置要綱」制定	選定のポイントは以下のとおり。 ①図書館サービスを基盤とした、ビジネスユーザー支援など立地条件を見据えたサービス ②図書館機能を中心とした、多彩な学習機能の積極的な展開
平成21年7月	都立日比谷図書館を千代田区に移管	
平成21年7月	運営事業者候補者として2業者からの応募を受付	開設準備業務への取組姿勢や改修工事への協力状況などを踏まえ、公募によらず、運営事業者である「日比谷ルネッサンスグループ」に対し応募を求め方法により、選定を行った。
平成21年9月	「(仮称)日比谷図書館・文化ミュージアム運営事業者候補者選定委員会」において、運営事業者候補者として「日比谷ルネッサンスグループ」を決定	
平成22年6月	改修工事着工	選定のポイントは以下のとおり。 ①業務の運営体制 ②業務の継続性と経営の安定性 ③業務実績
平成22年6月	第2回定例区議会で千代田区図書館条例を改正、旧日比谷図書館の正式名称を「日比谷図書文化館」とし、区立図書館として制定	
平成22年11月	「日比谷図書文化館指定管理者候補者選定委員会設置要綱」制定	千代田区立図書館運営方針等検討会における5館一体運営の提案を受け、次期指定管理者は、5館一体で募集することとした。
平成23年1月	「日比谷図書文化館指定管理者候補者選定委員会」において、運営事業者として選定した「日比谷ルネッサンスグループ」を、指定管理者候補者として決定	
平成23年9月	改修工事竣工、指定管理者による日比谷図書文化館運営開始(～平成29年3月)	選定のポイントは以下のとおり。 ①ゼネラルマネージャーを中心とした執行体制 ②業務の継続性 ③業務実績
平成23年11月	11/4 日比谷図書文化館開館	
平成23年9月	日比谷図書文化館を除く区立図書館第2期指定管理者を募集し、2事業者からの応募を受付	
平成23年11月	「千代田区立図書館指定管理者候補者選定委員会」において、第2期指定管理者候補者として「ヴィアックス・SPSグループ」を決定	
平成24年4月	指定管理者による区立図書館(千代田、四番町、昌平まちかど、神田まちかど)第2期運営開始(～H29年3月)	
平成28年6月	区立図書館(5館)の運営を行う指定管理者を募集し、1事業者からの応募を受付	
平成28年8月	「千代田区立図書館指定管理者候補者選定委員会」において、指定管理者候補者として「千代田ルネッサンスグループ」を決定	
平成29年4月	指定管理者による区立図書館5館(千代田図書館、日比谷図書文化館、四番町図書館、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館)一体の運営開始(～R4年3月)	
令和4年4月	指定管理者選定の手続きを経て、「千代田ルネッサンスグループ」による区立図書館5館の運営開始(～R9年3月)	

- 現在、千代田区には、千代田図書館、日比谷図書文化館、四番町図書館、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館の5つの図書館がある。
- 日比谷図書文化館は、元々は東京都立の日比谷図書館として運営されていたものが、区に平成21年に移管され、平成23年11月にオープンし、その時に指定管理者制度を導入した。



千代田区立図書館の運営について

千代田区立図書館は2017年4月1日より下記の指定管理者が運営しています。

名称：千代田ルネッサンスグループ

各企業の専門分野をいかした業務分担のもと、図書館運営を行っています。

代表企業

株式会社小学館集英社プロダクション

【千代田区立図書館】ゼネラルマネージャー

【日比谷図書文化館】館長、副館長、事業企画、広報営業、総務経理、受付コンシェルジュ、ミュージアム レストラン・ショップ・カフェは委託

構成企業

株式会社ヴィアックス

【千代田区立図書館】学校支援

【千代田図書館】図書サービス、総務

【四番町図書館】図書サービス、維持管理

【昌平まちかど図書館・神田まちかど図書館】図書サービス

株式会社図書館流通センター

【日比谷図書文化館】図書サービス、ミュージアム、事業企画

サントリーバブリシティサービス株式会社

【千代田区立図書館】千代田区読書振興センター、広報

【千代田図書館】コンシェルジュ

株式会社シェアード・ビジョン

【千代田区立図書館】システム

【千代田図書館】館長、事業企画

【日比谷図書文化館】特別研究室、ホールマネージャー

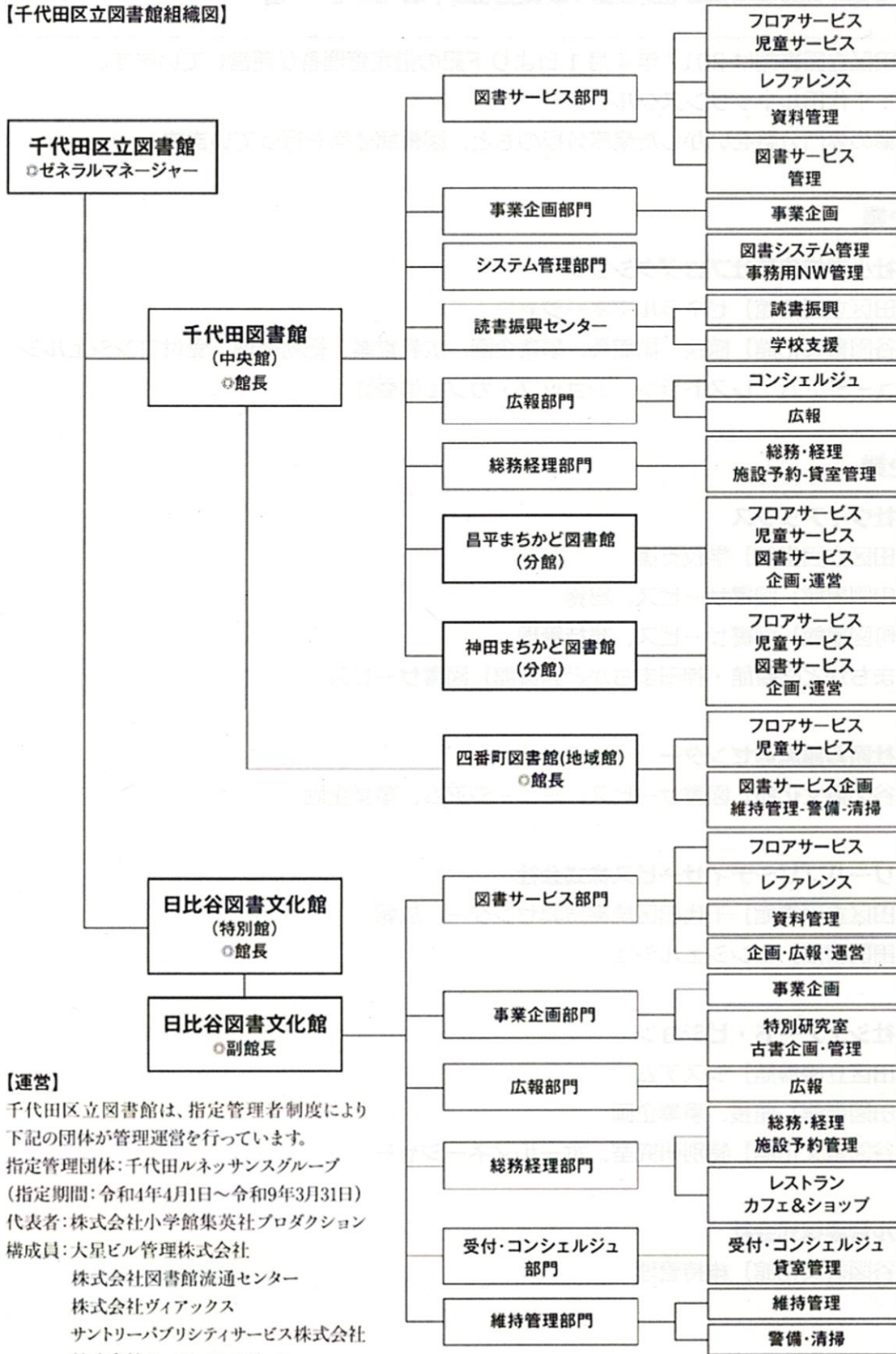
大星ビル管理株式会社

【日比谷図書文化館】維持管理

- 現在の(千代田区立図書館の)指定管理者は、代表企業の株式会社小学館集英社プロダクションの他、構成企業5社の合計6社で構成している。
- 日比谷図書文化館には、代表企業の株式会社小学館集英社プロダクション、株式会社図書館流通センター、株式会社シェアード・ビジョン、大星ビル管理株式会社の4社が入っている。
- 指定管理者が2段階で導入されており、その関係で指定管理者公募を2回に分けてやっている。現在は1つの指定管理者として構成されている。
- その経緯により、千代田図書館を中心としたブロックと、日比谷図書文化館を中心としたブロックとに分かれている。

組織図

【千代田区立図書館組織図】



【運営】

千代田区立図書館は、指定管理者制度により下記の団体が管理運営を行っています。
 指定管理団体：千代田ルネッサンスグループ
 (指定期間：令和4年4月1日～令和9年3月31日)
 代表者：株式会社小学館集英社プロダクション
 構成員：大星ビル管理株式会社
 株式会社図書館流通センター
 株式会社ヴィアックス
 サントリーパブリシティサービス株式会社
 株式会社シェアード・ビジョン

〈質疑応答〉

◎久保田委員

指定管理者の選定プロセスはどういった手法で行っているのか？

①千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

いわゆるプロポーザルという形で実施をして、書類審査とプレゼンテーションを行い、業者を選定している。

◎久保田委員

プロポーザルに参加されたのは何社だったか？

①千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

- 平成 18 年（日比谷を除く） 5 団体
- 平成 21 年（日比谷のみ） 2 団体
- 平成 23 年（日比谷を除く） 2 団体
- 平成 28 年 1 団体
- 令和 3 年 2 団体

ちなみに直近の、令和 4 年度からの現在の指定管理期間については、2 社の提案があり、現在の指定管理者に決定した。

◎久保田委員

指定管理は、いくつか枠に分かれているというご説明だったが、こういった形で指定管理料は分けられているのか？

①千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

大まかな費用区分としては、支出の部分では、「人件費」、「資料費」と、システムや建物管理も含めた「運営費」、それから展示や生涯学習的な講座等のいわゆる図書館の資料とは別の行事をやるための「事業費」。大まかに 4 つに分けて形成されている。

令和 6 年度の決算額、こちら 5 館合計で、約 9 億(円)弱の金額ということになる。

指定管理者事業の範囲は？ 指定管理期間は？

千代田区立図書館は、平成28年度までは2つの指定管理者(企業体)が運営していましたが、平成29年度からは千代田図書館、日比谷図書文化館、四番町図書館、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館の5館を一つの指定管理者が運営しています。指定管理期間は、令和4年4月1日～令和9年3月31日の5年間です。

区の行政事務を除いたサービス運営・企画全般を指定管理者が担っており、資料収集方針に基づく収集計画や選書も指定管理者が行っています。

指定管理料は？(決算ベース)

- ※1 H18 年度は一般事務費等も含む
- ※2 H23 年 11 月に日比谷図書文化館開館
- ※3 H24 年度はシステムリプレイス経費を含む
- ※4 H30 年度からシステム管理経費を除く
- ※5 R2～4年度は新型コロナによる損失補填を実施

H18 年度 ※1	約 270,000,000 円	H23 年度 ※2	611,869,000 円	H29 年度	865,372,627 円	R4 年度 ※5	880,319,422 円
H19 年度	360,000,000 円	H24 年度 ※3	876,025,453 円	H30 年度	833,377,000 円	R5 年度	876,636,041 円
H20 年度	392,564,000 円	H25 年度	819,932,000 円	H31 年度	846,855,000 円	R6 年度	898,197,414 円
H21 年度	371,240,000 円	H27 年度	841,709,000 円	R2 年度 ※5	858,189,000 円	R7 年度 (予算額)	914,581,000 円
H22 年度	375,483,000 円	H28 年度	840,595,000 円	R3 年度 ※5	857,701,000 円		

◎園田委員

指定管理で指定する際に、この日比谷図書文化館の「日比谷カレッジ」、「特別展示室」等、この内容も全て指定管理者が自ら発案して展示をしていただいたのか、それとも仕様書のなかでやったものか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 藤沢 雄一 副館長

区の方で、ある程度テーマ性というのはもちろんあるのだが、仕様書に基づいたなかで、それぞれの企業体の方でコンセプトを出し合って決めた感じである。

④千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

今の特別展示について言えば、公募する際に要求水準書を示した上で公募をしており、そのなかで年4回やるということで、要求水準を設けさせていただいている。

そのうち2回は指定管理者の主催、あとは区の文化財事務室の特別展があるので、そちらと連携するものも含めて、年4回という形にさせていただいている。

◎福島委員長

利用する方々の職域というか、例えば学生さんの比率だとか、そういうデータはお持ちだろうか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

ここは霞ヶ関などの官庁街であり、周りに住宅が全くないという特殊な(図書)館である。よって、ビジネスマンの方が多いし、近くに官庁があるので官庁の方々が参考に見に来るということもある。

その他に、中高生の学生さんがここに来て勉強するということもある。

そういった意味では、特定の層に偏っているわけではなく、ビジネス層もいるし、学生層もいるし、官庁の層もいるしということで、色々な方々がいらっしゃる館である。

もう一つ特徴として、近くに全く住宅がないために、いわゆる子ども向けの児童書を置いていないという特徴がある。

◎福島委員長：

(こちらの図書館では)千代田区、港区、中央区という大きな区をカバーしているかと思う。よって、多種多様の方々が利用されるのだろうと想定されるが、そのなかでトラブル等はないか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

窓口や受付のトラブルとしては、(例えば今年の)12月では、13件の(利用者からの)意見をいただいた。

そのうち、「お褒めの言葉」が3件あった。

よって10件ほど苦情をいただいているのだが、「改善してほしい」、「日比谷都市文化館でやるべきなのにやってない」というものが6件である。

他4件は、いわゆる「言いがかり」のようなものである。受付などで対応をしている。

その他「施設について」のご意見では、空調設備が(設置後)15、6年経っており、その不調に関する苦情、トイレ等の水まわりの苦情、そういったご意見はある。

④丹羽委員：

「改善してほしい点に関しての意見」とは、具体的には、どのような内容的だったのか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

運営している側では気づかない、利用者目線で「こういったことを改善したらいい」というご指摘である。貴重なご意見として承っている。

(具体的には)先ほど施設の話もあったが、夏場に「クーラーの効きが悪いのを何とかしてほしい」、「ちょっとトイレが汚いのできれいにしてよ」等のそういったところも、細かい改善(すべき点)だとは思いますが、ご指摘はいただいている。

2. 「日比谷図書文化館の概要」

千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長より

千代田区立日比谷図書文化館 概要

令和7年11月1日現在

○ 開設 平成23年11月4日

(参考) 明治41年11月 東京市立日比谷図書館開館
 昭和18年 7月 都制施行に伴い都立図書館となる
 昭和20年 5月 東京大空襲により建物と20万冊以上の蔵書焼失
 昭和32年10月 新館落成(地下1階、地上3階)
 昭和36年 4月 増改築(4階)
 平成14年 1月 都立図書館あり方検討委員会が「今後の都立図書館のあり方」を発表
 平成16年10月 都立図書館あり方検討委員会が「都立図書館の基本的方向」を発表
 平成17年10月 都教育委員会が都立日比谷図書館の千代田区への移管方針を発表
 平成21年 3月 都立日比谷図書館 閉館
 平成21年 7月 東京都より千代田区に移管
 平成23年11月 日比谷図書館を全面改修し、千代田区立日比谷図書文化館として開館

○ 施設 鉄筋コンクリート造 地下1階、地上4階 9,665㎡
 うち、図書フロア 2階、3階 3,655㎡
 閲覧席数 325席(108席) ※机席(椅子のみ)

○ 指定管理者 千代田ルネッサンスグループ
 代表企業 株式会社小学館集英社プロダクション
 構成企業 大星ビル管理株式会社
 株式会社図書館流通センター
 株式会社ヴィアックス(千代田)
 サントリーパブリシティサービス株式会社
 (千代田)
 株式会社シェアード・ビジョン

- 明治41年に東京市立の日比谷図書館として開館し、その流れを汲んでおり、歴史がある図書館になっている。
- 都立の日比谷図書館ということで長らく運営をされていたが、千代田区に移管され、平成23年の11月に千代田区立の日比谷図書文化館ということで開館している。それから15年を経てきている。
- 建物の構造、建て方に特徴があり、三角形の建物になっている。



- この独特の形は、都立の時代からのものであり、「日本の図書館でこういった形の建物は(他には)ないのではないか」ということで、千代田区に移管される時も、この特徴ある建物の形を生かしていこうということで引き継いでやっている。

○ 利用者環境

・住民基本台帳人口 69,396人(令和7年11月1日現在)

・R2年国勢調査

 昼間人口 903,780人

 常住人口 66,680人

 昼間・常住人口比率 1,355.4

・日比谷図書文化館周辺の昼間人口 約369,000人

 千代田区(日比谷公園、内幸町、霞ヶ関、永田町、有楽町)

約151,000人

 港区(虎ノ門、新橋、西新橋)

約132,000人

 中央区(銀座)

約104,000人

- 上記は、昨年の11月現在のデータだが、住民基本台帳人口として(約)69,300人ということになっている。
- 千代田区は、20、30年前ぐらいには人口が35,000人(程度)まで激減した。いわゆる地上げ等が騒がれていた時代である。
- 千代田区としても、自治体の存立基盤に関わるということで、人口回復を施策の第一に掲げて様々な施策を打ってきた。その結果、年々人口が回復してきており、7万人を見据えるという状況になってきているところである。
- 上記データは、令和2年の国勢調査の数字だが、(千代田区の)昼間人口は90万人だが、住んでいるのは6万人ということで、昼夜の人口差がとても大きい自治体というのも千代田区の特徴になっている。
- 千代田図書館文化館周辺の昼間人口も載せてあるが、(千代田区内では)日比谷公園とか内幸町、それと霞ヶ関、永田町、有楽町である。それに加えて、港区、中央区(の周辺地域を含めて考えると)昼間人口としては(約)36万9千人と捉えている。

○ 図書館総合展 Library of the year 2013 優秀賞受賞
館の目的として「図書館機能」、「ミュージアム機能」、「文化活動、交流機能」、「アカデミー機能」を掲げ、従来の図書館機能に博物館、学習、交流の機能を統合した複合施設としてそれぞれの分野で新しい事業・業務展開に意欲的に取り組んでいる点が評価された。

- 「ライブラリーオブザイヤー」で2013年に優秀賞を受賞している。
- これは図書館機能以外にも、「ミュージアム機能」、「文化活動・交流機能」、「アカデミー機能」ということを考えており、その点が大きく評価されたものと認識をしている。

○ 入館者数	平成23年度	161,689人	(1日平均1,207人)
	平成24年度	526,710人	(1日平均1,518人)
	平成25年度	614,792人	(1日平均1,791人)
	平成26年度	648,923人	(1日平均1,870人)
	平成27年度	698,385人	(1日平均2,007人)
	平成28年度	689,527人	(1日平均1,987人)
	平成29年度	664,918人	(1日平均1,971人)
	平成30年度	761,301人	(1日平均2,194人)
	令和元年度	702,565人	(1日平均2,024人)
	令和2年度	249,202人	(1日平均739人)
	令和3年度	286,050人	(1日平均829人)
	令和4年度	450,469人	(1日平均1,345人)
	令和5年度	521,501人	(1日平均1,499人)
	令和6年度	556,037人	(1日平均1,602人)

- 入館者数は、令和2年度、3年度のコロナ(禍)の時にはガクッと落ちた。
- その前の平成30年度には年間で76万人(いた来館者数が25万人弱まで)と、大きく落ちたが、令和4年から5年、6年と徐々に持ち直してきている。
- 令和7年度も傾向としては60万人近くの来館者数だというふうに予想をしている。令和6年度でいうと1日に1,500人ぐらい来館者が来ていただいている状況である。

・個人貸出数 約138,745冊 (月平均11,562冊) (令和6年度)
 ・蔵書数 約220,818点 (令和6年度)

- 個人の貸出数は、令和6年度の数字として約13万冊ということで、月平均11,500冊程度となっている。
- 蔵書数は、約22万点。絶えず新しいものを入れて、古くなってきたもの、年数が経ってきたもの等は処分している。

○ 日比谷図書文化館の特徴

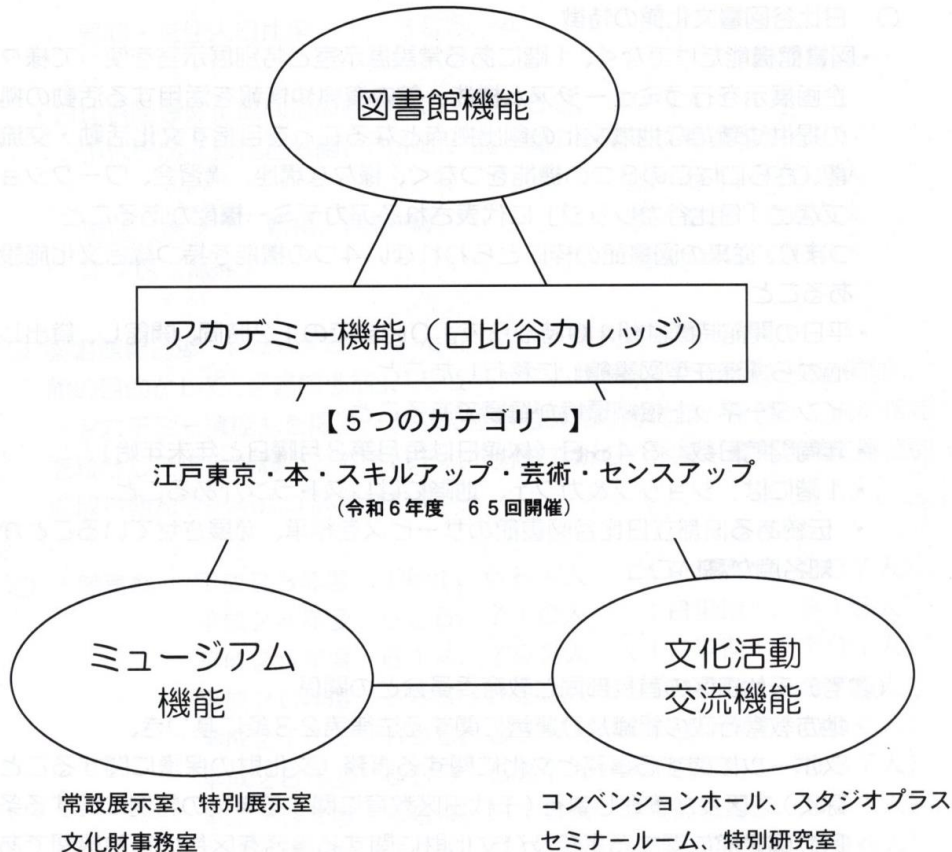
- 図書館機能だけでなく、1階にある常設展示室と特別展示室を使って様々な企画展示を行うミュージアム機能、館内資料や情報を活用する活動の拠点の提供や新たな地域文化の創出拠点となることを目指す文化活動・交流機能、さらにはこの3つの機能をつなぐ、様々な講座、講習会、ワークショップなど「日比谷カレッジ」に代表されるアカデミー機能があること
- つまり、従来の図書館の枠にとらわれない4つの機能を持つ総合文化施設であること
- 平日の開館時間は朝10時から夜10時までの12時間、開館し、貸出し中心から「滞在型図書館」に移行したこと
- インターネット接続環境が豊富であること
- 年間開館日数 348日(休館日は毎月第3月曜日と年末年始)
- 1階には、ショップ&カフェ、地階にはレストランがあること
- 伝統ある旧都立日比谷図書館のサービスを継承、発展させていることから知名度が高いこと

- 平日の開館時間は、朝の10時から夜の10時まで。
- いわゆる「滞在型の図書館」を目指すということでやっている。よって、研究される方も長く滞在しておられるし、夏休みとか土日とかには、中高生の学生さんも、朝から来てもらっている。
- 1階にはショップ&カフェが、地下1階にはレストランがある。ここには「図書館の本を持って行っていただいてもかまいません」ということで、そこでゆっくりと見ていただいて、終わったら元に戻していただく。「(本が)汚れませんか」ということをよく聞かれるが、ここ15年間やっても、「汚した」、「破損した」という件は幸いなことにゼロ件である。

日比谷図書文化館の「四つの機能」

区民および区内在勤在学者などを中心とする利用者の「知識の入り口」として、従来の図書館の枠にとらわれず、「四つの機能」が相互に連携する文化創造的ライブラリー。

ビジネス情報・アート情報・地域情報（千代田・江戸・東京）



- 「図書館機能」、「ミュージアム機能」、「文化活動・交流機能」、そして「アカデミー機能」と、大きな4つの柱で運営している。
- その他、いろいろな特別展示とか、常設展示とか、それに関連した図書を展示コーナーで紹介するなどして、連携しながらそれぞれの役割とか効果とか、そういったものを高めていこうということをやっているところである。

〈質疑応答〉

◎人見議長

15年経って(施設に)不具合が出てくると(いう説明だったが)、そのなかで修繕費というのは指定管理料に含まれているのか、それとも区の方で(負担しているの)だろうか？

Ⓐ千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

指定管理料のなかに「修繕」という部分が入っている。

④千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

千代田区の場合、「指定管理者のガイドライン」というものを区全体で持っており、「60 万円」というのが一つの境目になっており、それを超えるものについては「区の方で行う」という形になっている。

工事に係るものについては、別の施設部門との連携をして行う形をとっている。

④関口委員

建物が三角形ということで、管理上で問題と思っていることにはどういうものがあるか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

三角形で、どうしてもデッドスペースが若干あるな、というところはあるが、この三角形になっていることで利用者の方が使いづらいとか、そういったこともないし、管理する方でも困るというところは認識していない。

④久保田委員

平成 23 年に全面回収したということだが、大元の躯体としては、「昭和 32 年新館落成」、「昭和 36 年増改築で 4 階建てに」したものがこの躯体なのか？

④千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

おっしゃるとおり。そういう意味では、昭和 32 年に竣工したものを現在も使い続けている。

④久保田委員

そういうことであると、例えば耐震改修、要するに設備の修繕だけじゃなくて、躯体もかなり手を入れて大改修したということか？

④千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

その通り。東京都が所有している時代に、いわゆる耐震改修を行い、Is 値(構造耐震指標)等は基準を満たしているという状況である。

④久保田委員

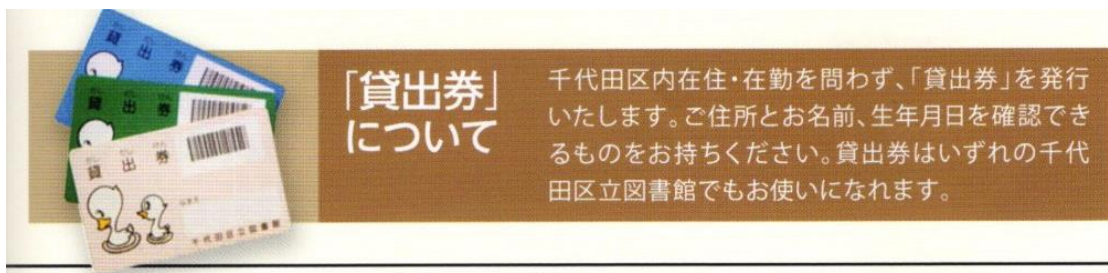
耐震改修したのはどれぐらい前なのか？掛かった費用はどれぐらいか？

④千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

平成 13 年に東京都が実施した。工事は東京都が実施したため、千代田区には記録がない。

④園田委員

①パンフレット拝見させていただくと、「貸出券は千代田区内に在住在勤を問わず発行いたします」ということで、例えば、群馬県民でも可能なのか？



②また、実際に貸し出している本の区民の割合はどれくらいなのか？

③千代田区民でなくても貸出券がつかれることへの区民からのクレームは？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

①(群馬県民でも貸出券は)作れる。日本国内に住所がある方であれば可能である。

④千代田区 地域振興部 文化振興課 図書館係 松浦 秀一 係長

②利用者の登録割合では、大体 22 パーセントが千代田区民、日比谷(図書文化館)に限ると、3.1 パーセントが在住者の区民登録割合である。

(区内の図書)館によっては、7、8 割を在住者が占めるところもあるが、(区で)平均すると今申し上げたような状況である。

ここは(区民利用割合が)少ないが、千代田区の他の図書館では(区民利用の)割合が高いところもある。

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

②おそらく登録者数と貸し出し冊数の区民割合は等程度と思われる。なので、3、4 パーセントということかなと思う。

③区民の方から(そのことに関する)お声ははいただいていない。

閲覧席に区民優先席を設けさせていただいている。

特別展等の入場料も、区民の方は無料である。

④千代田区立 日比谷図書文化館 図書サービス部門 小野口 史恵 図書部門長／司書

②元々、都立時代の時に、この日比谷図書館というのは都立図書館のなかで唯一貸し出しをしていた図書館であった。

それをそのまま千代田区に移管されて引き継いでいるが、この周りには住居がないことと、日比谷図書館は昔からあるために「観光」とか、有楽町、銀座等に来られた方が、「記念に来られる」ということが割合的に多い。

区民の方々は、住居の近くにある図書館をお使いになる割合の方が大きいので、日比谷(図書文化館)は、区民の方には色々アピールはしているが、「ここまで電車を乗り継いで来る」という(感じになるので区民にとって)、身近な、気軽な図書館という位置づけではないのかも知れない。

④関口委員

カフェが1階にあるということだが、いつ頃からあるのか？

地域の方である利用者からの声を受けて、そのカフェ等が設置されたのか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

カフェについては日比谷図書文化館が開設当時から設置されていると聞いている。

区民の意見を聞いてというよりも、日比谷図書文化館には、色々なコンセプトがあるが、(そのなかに)「滞在型」(というコンセプトがある)。

カフェとかレストランがあれば、「一日いられる」というところもあり、そういった観点から設置サイドで考えさせていただいたというところである。

④関口委員

運営されているこの各レストランというのは、どういう形で運営されているのか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

指定管理者のグループのなかに「株式会社プロントコーポレーション」という会社がある。そこが実際の運営、収支等をやっている。

④関口委員

経営上は黒字か？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

赤字にはなっていない。黒字であると思う。

④関口委員

(他の図書館では)利用していて、蔵書が汚れるとか聞くが、先ほどの話では(こちらでは、そういうことは)なかったということだが、利用される方のモラルというのはかなり高いのだろうか？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

そのように感じている。

図書館、図書文化館の他のところでもレストランとかカフェも開けておられるところがあるが、若干そういったトラブルがあるようにお聞きしている。

それと比較すると、図書館を利用する姿勢というのがとても良いと認識している。

④丹羽委員

日比谷図書文化館には、図書館機能、アカデミー機能、ミュージアム機能、文化活動・交流機能と、様々なものがあるが、「現状の課題」、「今後の展望」は？

④千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長

「今後の展望」は、最近、「石川県立図書館」等、色々な素晴らしい図書館が、次々に出来ているが、それに対して、日比谷は歴史を持っているけれども、若干施設面等が古くなってきているという「課題」がある。

そのなかで、日本一とは言えないが、東京のなかにある図書館、図書文化館のなかで、「東京一の認知度」を獲得したい。

それと、いわゆる「対人口比の利用率」、これも「東京一」にしたいと掲げてやっていこうと考えている。

それに向かっては、当然ながら、今以上に日比谷図書文化館では、図書とか、特別展とか、常設展とか、それを魅力的にして、参加していただいた方が満足していただけるものを作っていこう、と思っている。

「現状の課題」は、まず施設面でいうと、(都から引き継いでから)15年経ってきたので、空調とか、トイレ周り、水周りとか、建物の躯体部分とか、色々と不具合が出てきているので、それを千代田区役所と協力しながらやっていきたい。

今ところは、図書部分も含めてだが、最善の努力をさせていただいて(利用者には)満足いただいていると思っている。

課題と言えるかどうか分からないが、これを「ブラッシュアップする」というのが課題かな、というふうに捉えているところである。

3. 図書フロアについて

千代田区立 日比谷図書文化館 図書サービス部門

小野口 史恵 図書部門長／司書より

- 当館は、2011年の11月4日から、都立から引き継ぎ、区立として開館している。
- 東京都のコンセプトも一部引き継いで、蔵書も都立が残していただいたものに、新しく購入したものを加えて、開館当初、2011年は約17万冊で開館している。
- 今現在は5万冊増えて、閉架と開架を合わせて22万冊の蔵書数がある。
- 都立からのコンセプトの一つとして、日比谷図書館は児童室がそもそもなかったため、当館もそのまま児童室はなしで運営している。
- 日比谷図書館には、元々、雑誌室というものがあり、数千タイトルの雑誌を（閲覧は出来ても）「貸し出しはしない」ということにしていた。それを当館でも引き継ぎ、今雑誌のタイトルは年々減っているため、460タイトルほど収集しているが、これも全て「貸し出しをしない」ということで運営している。
- 大きな特徴として、「ビジネス情報」、「アート情報」、「地域情報」という3つのコンセプトを中心にして蔵書を構成している。
- 2階、3階が図書フロアになっていて、それぞれのコンセプトに合わせた書架を作成し、部屋ごとの蔵書にそれぞれ特徴を持って配架している。
- 特に「アート」、「地域情報」、「ビジネス情報」に関しては、基本書から専門書まで、一般に流通していないようなものまで網羅的に収集して、特別に配架している。

4. 施設における健全経営について、

千代田区立 日比谷図書文化館 藤沢 雄一 副館長より

- 指定管理者として、区が示す公共の目的を最優先に理解しており、図書館、展示、講座、複合機能を一体的に運営している。
- 収益は、もちろん大事なところではあるが、継続して図書館、複合文化施設のサービスを根付かせる、いい形でお伝えできるように設定している。
- また継続的にコンソーシアム(共同体)を組んでやっているため、人材の育成、安定した運営というものも非常に大事にしているというところである。

○施設見学

3階、2階：千代田区立 日比谷図書文化館 図書サービス部門

小野口 史恵 図書部門長／司書による解説

3階

- 3階には、主に書架と閲覧席がある。先ほど申し上げた3つのコンセプトの内の「アート」に関するフロアが3階の「ブルーゾーン」になっている。



- 図書フロアは、2階、3階にそれぞれ2部屋ずつあるが、それぞれの部屋に色を付けている。



- 左記のように、それぞれのゾーンで、本の貸し出しを促進する目的の図書展示もしている。これは4ヶ月に1回、テーマを決めて展示を作っている。



ブルーゾーン



グリーンゾーン

- 上記は、「ライブラリアンズ・ピック」と言うもので、その時の旬のテーマで司書が選定をして展示をしている。
- 当館は、他の図書館と違い、小説類をそれほど積極的には収集していない。ただ、やはり出版的には小説類というのはかなり多いものなので、(ブルーゾーン)後半部分は文学系の架台になっている。
- 「グリーンゾーン」では、3つのコンセプトにはまらない「それ以外の図書」を置いてある。
- 各部屋には必ず閲覧席がある。窓際の公園内がよく見えるところには読書席を設けてもいる。



- やはり図書館というのは静かに読書をしたいという方が多い。当館は滞在型でビジネスパーソンもご利用いただいて「仕事もできます」というコンセプトがあるので、静かに勉強したい、読書をしたい、という方々に向けて「静寂席」というものを設けている。

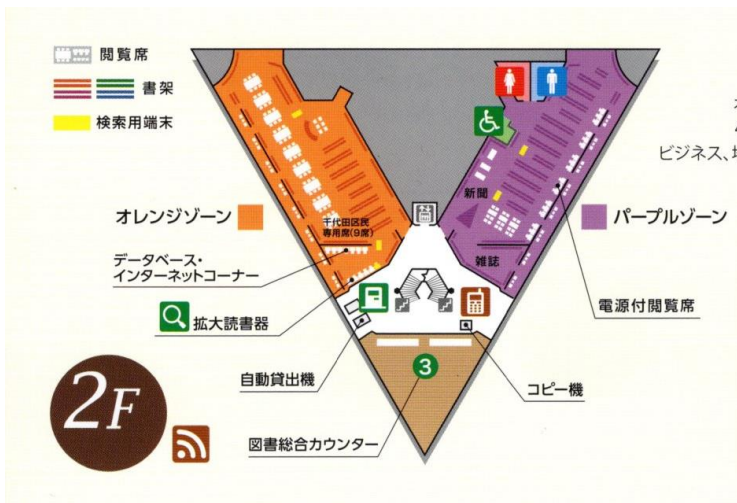


- 階段・エレベーターホールの空間を活用して図書の展示をしたり、上記はミュージアム連絡会の展示スペースになるが、館内を「回遊」していただき、かつ、図書を利用していただくという目的で、様々なテーマで展示もしている。



- 当館では、毎月ボードゲームのイベントを実施している。
- 常連さんから初めて参加する方まで 20 名ほどが、「毎月顔を合わせて交流をする」という目的で実施している。
- ボードゲームと言っても、大人が楽しめるものであり、結構難しい。
- 4階の展示室で行われていて、スタッフがそれぞれ新しくゲームを買って、ルールを覚えて、みんなに教えながらやっている。

2階



- 正面入口から入り、階段を上ってきてすぐのところ、貸出・返却カウンター、登録と調べ物カウンター、レファレンスカウンターになっている。
- その後ろ側が、我々の事務所になっている。

オレンジゾーン【ビジネス・政治・法律・社会】

統計や白書をはじめ、経済・経営・法律など、洋書も含めビジネスに関する資料を中心に所蔵しています。入口には、時事問題やビジネスに役立つ情報を随時更新する“顔の変わる書架”【UPDATE】があり、新鮮なテーマに触れることができます。

3 図書総合カウンター

貸出・返却や利用登録を行う総合窓口。本や資料に関する質問、相談もこちらで。便利な自動貸出機、コピー機（図書館所蔵の資料のみ利用可）もあります。

パープルゾーン【新聞・雑誌・地域・観光】

新聞、雑誌、観光情報をはじめ、千代田区や東京都の行政資料、文化財に関する図録の他、江戸・東京の地理・歴史や文化に関する資料を幅広く所蔵しています。奥には日比谷図書館文化館の歩みを紹介する展示もあります。

閲覧席

テーブル席や椅子席など約300席を設置。全席で無線LANが利用できます。蓋付きの飲み物は持ち込み可能ですが、お食事はご遠慮ください。図書総合カウンターでの申し込みが必要な席：オンラインデータベース専用席・インターネット利用席・電源付閲覧席



自動貸出機

- 新刊図書コーナーでは、毎週土曜日にその週に入ってきた新刊を並べている。毎週約 130 冊の新刊を並べている。



- 上記は「日比谷カレッジ」我々が主催している講演会の一部である。
- 「パープルゾーン」は「地域情報」になっており、江戸に関するもの、皇室に関するもの、千代田区に関するもの、東京に関するものという区分で書架を構成している。
- 新聞は 46 紙程度、地方紙合わせて約 460 冊中の 400 冊ぐらいの雑誌が 2 階にある。
- 当館では閲覧席の全てに電源が付いているわけではないが、窓際にある座席には電源を付けており、予約制で管理をしている。



- 「オレンジゾーン」は、「ビジネス情報」を中心に開発されており、ここが一番閲覧席が多いのと、先ほどご案内したよう「千代田区民席」がある。



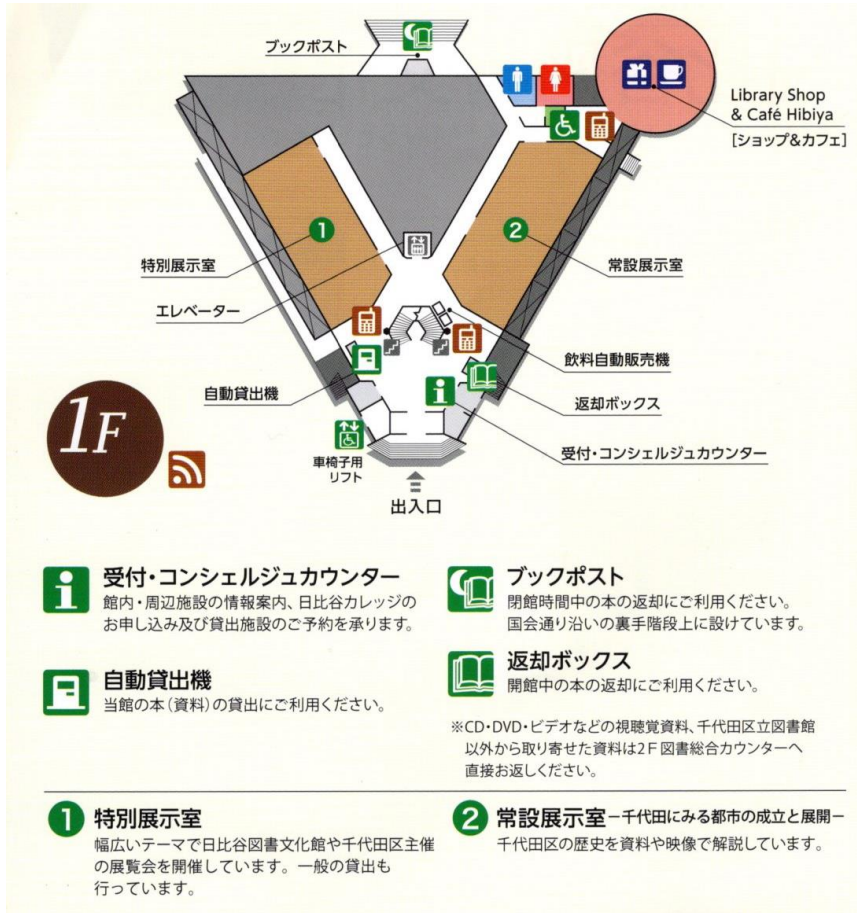
毎日更新される時事ネタ等に対応した書架、展示もある

- インターネット席と、データベース検索端末を申請制にして活用している。



データベース検索端末

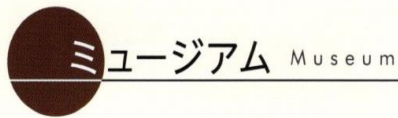
1階 特別展示室：千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長による解説



特別展は、基本的には下の券売機で入場券を購入して利用する。

- 特別展示は、大体年に 4 回程度やっている。
- 千代田区の文化財係が主催する特別展示が 2 回、指定管理者側で主催するものが 2 回という形でやっている。
- 区民の方、中学生以下の方は無料で入れる。

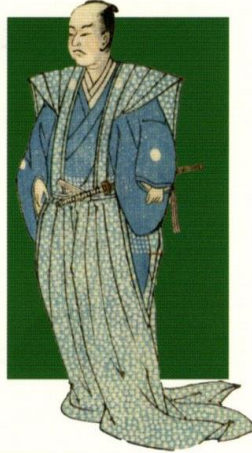
1階 常設展示室：千代田区 地域振興部 文化振興課 文化財係
山田 将之 主任学芸員による解説



■ 常設展示室【1F】—江戸・東京の成立と展開— (入場無料)

「環境・人間・都市」をテーマに、これまでの発掘調査や資料調査によって明らかとなった千代田区の歴史や文化を解説しています。デジタル技術を駆使したバーチャル侍による江戸城の儀礼案内や錦絵をもとに復元した絵草紙屋の模型も見どころです。

- I 第I室 発掘されたくらしと環境
- II 第II室 日比谷入江と中世千代田
- III 第III室 将軍の城づくり
- IV 第IV室 江戸から東京へ
- V 第V室 まちの歴史



■ 特別展示室【1F】

日比谷図書文化館や千代田区主催で地域の特性をテーマの中心に時代性や生活文化、アート、歴史など多様な切り口で、展覧会を開催しています。

また施設の貸出も行っています。詳細はお問合せください。



令和4年度特別展「学年誌100年と玉井力三—描かれた昭和の子ども—」
会場写真：白石和弘 Kazuhiro Shiraishi

展示室 利用料金	面積	金額/日
	約200㎡	50,000円

※搬入搬出など準備日につきましては1日あたり25,000円となります。

- 平成23年に(区立として)開館する際に、新しい取り組みとしてミュージアム機能も合体させた。
- 一番大きなポイントは、区の歴史を伝えられるところであるが、図書館機能と一緒に作ってあるということが非常に大事かと思う。
- 歴史文化を紹介するものが、有料ゾーンだと、なかなか人が入らない。しかし、ここでは、図書館に来た方が「フラッと入れる」。それにより、ミュージアムにとって大切な「利用者数」が上がりやすくなる。
- その意味で(図書館と)ミュージアム機能と合体させることというのは、ミュージアム側にとって、大きなメリットになる。

- 一方で存在する課題は、先ほど館長は「図書館として見た場合の課題は特に(大きなものは無い)」、ということだったが、ミュージアムとして見た場合は、元々図書館だった建物を急ごしらえでミュージアムにした関係で、どうしても史料等の保管・保全の点が大きな課題になっている。
- 特に(桐生市の歴史文化である)“かかあ天下”であれば、多分、絹製品がポイントになってくるかと思うが、「光」、「温湿度」、こういったものは(史料保存に悪影響があると思うが)この場合、それが担保できていないという問題がある。
- 同時に、「防火設備」の観点でも、元々図書館として作った防火設備であるため、この展示スペースは(元は)閲覧室だったということもあり、万一、飲食店(同1階のカフェや地下一階のレストラン)で発火した場合、この展示施設ごと封鎖されてしまう構造になっている。そのために、一緒に延焼してしまうという課題がある。
- やはり、元々(ミュージアム機能を持たせることを考えて)作った建物ではなく、途中から複合したので、そういった課題を抱えている状況である。

- 当然、(史料等のための十分な)温湿度管理が出来ないような環境なので、(展示)パネルがめくれ上がってしまう等のかなりの影響を受けてしまっている。
- 「ミュージアムと(図書館)の複合施設を作ることを検討する」場合には、初めからその辺を考慮しながら、しっかりエリア分けをして作っていくということが極めて重要になってくるかと思う。
- 複合施設の趣旨、「図書館ベースでいく」のか、「ミュージアムも入れるのか」、その点をしっかりと分けて検討を重ねるべきである。
- 千代田区として「いいところかな」と思うのが、「文化財係の直営」と「指定管理」をちゃんと分けてやっているというところである。

1階 カフェ：千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長による解説

ライブラリーショップ カフェ ヒビヤ

Library Shop & Café Hibiya

カフェは、大きな窓のある開放的な空間。軽食やドリンク類が楽しめ、図書フロアの資料を持ち込めます。また蓋付きドリンクは各フロアにテイクアウト可能です。ショップでは書籍や雑誌、文具、特別展の関連図書や千代田区の刊行物を販売しています。

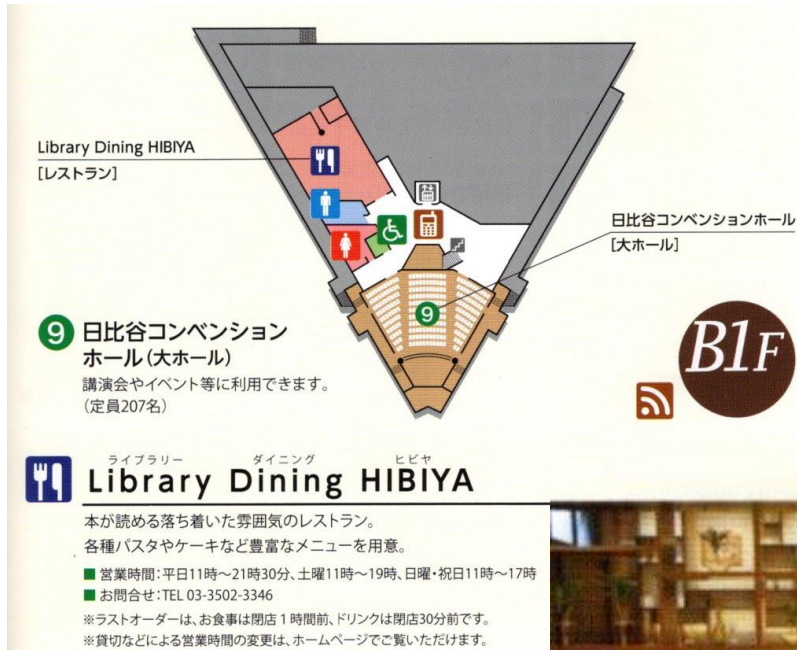
■ 営業時間：平日10時～19時、土曜・日曜・祝日10時～17時 ■ お問い合わせ：TEL 03-3502-3347





- 特別展示関連の書籍販売もしており、結構引合がある。その他にも色々な物販もやっている。昼時は、満席になる。
- 貸出書籍も置いてある。ここで読んでいただいて、終わったら元に戻していただく形である。

地下1階 レストラン：千代田区立 日比谷図書文化館 伊藤 司 館長による解説



- こちらも1階カフェと同じ株式会社プロントコーポレーションが運営している。
- スパゲティ等を主にやっている。ここはカフェとは、少々雰囲気違っており、落ち着いた雰囲気である。

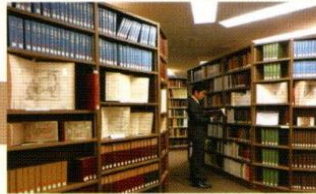


- 常連の方もよく利用される。本を読みながら時間を過ごす形で利用していただいている。
- この近辺には昼飯を食べるところは多いが、夕食を食べるところがあまりない。よって、利用者で夕飯を食べたい方は、こちらにいらして利用される方が多い。
- 「まい泉」からプロントがサンドイッチ等を仕入れているとも聞いている。



4階：特別展示室

4F 特別研究室

7 特別
研究室貴重な
古書の宝庫

内田嘉吉文庫や千代田区立図書館所蔵の地域資料、和本など、貴重な古書約2万冊を直接手にとってご覧いただけます。内田嘉吉文庫は明治、大正時代に通信官僚、台湾総督などを歴任した内田嘉吉氏が収集した約1万6,000冊の蔵書。ペリーの『日本遠征記』やシーボルトの『日本』など貴重な原書も多く、幕末～明治大正期に日本や海外で出版された本を多数所蔵しています。定期的に蔵書を紹介する企画展示も開催しています。

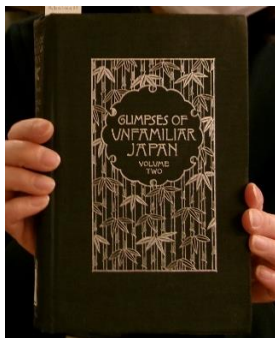
8 特別
研究席快適な
スタディールーム

四季折々の日比谷公園を一望できる32席を用意。図書フロアや特別研究室の蔵書を自由に閲覧できるほか、仕事や勉強にもお使いいただけます。全席に電源コンセントと無線・有線LANを備え、ビジネスパーソンに好評です。

■ 開室時間：平日10時～20時、土曜10時～18時
日曜・祝日10時～16時

■ 利用料金：300円/2時間（2時間単位で延長可）

- こちらの「特別研究室」には、約2万冊の古書が納められている。
- そのうちの8割ほどが戦前の通信省の官僚だった内田嘉吉氏（うちだ・かきち※1）という方の個人の蔵書であり、古い本であるが、全て手に取ってご覧いただけるように開架にして公開している。
- 2割は、1929年まであった東京市立一橋図書館に収められていた本や、千代田区の古い地域史料などであり、全て自由に手に取ってご覧いただける。
- （古書・史料などの内容の）デジタル化も進めている。
それと併せて原本も開架にしている。
- それは、古い製本方法等を研究されている方もいらっしゃるもので、それ（原本）を残しておかないと（製本の）縫製（の仕様）が分からなくなってしまう、という観点からそのようにしている。そのため、利用者が非常に多い。



- 例えば、こちらは有名な書籍で、ラフカディオ・ハーンが「竹の本」と呼んだもの。
- （NHKの）朝ドラをご覧になっている方はご存知かと思うが、「鳥取のふとんの話」というのがこれに収められている。



※1 内田嘉吉氏（うちだ・かきち 1866から1933）

明治・大正期に通信省で日本の海事行政に関する法律の整備などに尽力し、台湾総督として植民地行政にも携わった。後には貴族院議員や私立東京商業学校長、日本無線電信株式会社社長を務め、工業振興、社会教育、通信インフラの分野でも実績を残した。

（この後、見学後の質疑応答の時間を予定していたが、時間の都合により実施できなかった）

○事前提出質問とその回答(※回答は視察後に千代田区から文書で回答いただいたもの)

◎千代田区には、「千代田区立日比谷図書文化館」の他にも、「千代田区立図書館」などの4つ(※誤り：正しくは5つ)の図書館がありますが、それぞれにどのような違いを持たせておられるのか？

④千代田区では、区立図書館5館それぞれに「中央館」「特別館」「地域館」「分館」の4つの機能を持たせている。詳しくは、当日お配りした「指定管理者による千代田区立図書館の運営」(※上記p. 3の添付文書)をご覧ください。

◎増え続ける蔵書や史料などはどのように保管・保存などをされているのか？

④増え続ける蔵書に対応するために閉架書庫を活用して保管している。

ただし、書庫のスペースには限りがあるため、年間を通じて除架および除籍を行い、収蔵スペースの確保と書架の鮮度や質の維持に努めている。

◎館内のカフェやダイニングでは、図書フロアの本も持ち込み可能、とあるが、そのことによる図書館蔵書が汚れてしまうなどのトラブルはないか？

④もし汚してしまった場合、汚れ具合によっては弁済をお願いする可能性もあるが、今のところそのようなトラブルは起きていない。

◎1階のカフェ、地下1階のダイニングの運営は、どのようなところが担っておられているのか？

④指定管理者から株式会社プロントコーポレーションに運営をお願いしている。

◎開館時間が午後10時までとなっているが、どのようなシフトで運営されているのか？

④2交代制または3交代制で運営している。

- 施設事務室は、早番 9:30～17:30、遅番 14:30～22:30 の2交代制。
- 図書フロアは、早番 9:00～17:30、中番 11:00～19:30、遅番 13:45～22:15 の3交代制。

以上

◎視察成果による当局への提言または要望等

日比谷図書文化館は複合的な文化施設になっている。蔵書 22 万冊の図書館の他に、ミュージアム機能、文化活動・交流機能、アカデミー機能の他に、図書を持ち込むことが出来るカフェやレストランを備えるなど「滞在型図書館」としての運営がされている。

平日の開館時間は 10 時から 22 時までを 3 交代勤務で可能としている。指定管理者制度を導入して民間企業のノウハウを生かした創意工夫による新規サービスの開発に務めるとともに、専門性を有するスタッフを確保して向上を図り、運営財源の確保に努め、事業展開を通じて採算性配慮の運営を行い、負担抑制に努めている。

特徴的な三角形の建物形状を活かして蔵書をジャンル分けした図書フロアが展開している。利用者は、官庁関係者、学生、ビジネス層が主で近隣居住者が極端に少ない地域ゆえに児童書は置いていない。特別研究室では、江戸時代から昭和戦前期の古書資料を所蔵し、内容のデジタル保存を進めつつも「製本や装丁を研究する方もあるので」とのことで、その蔵書全てが開架図書となっている。資料の活用のあり方について深く考えさせられた。

ミュージアムには、企画展と常設展があり、図書との相乗効果で館内巡回や来訪機会の増加が図られている。また、4 階には定員 24 名の会議室が 2 つ、地下一階に定員 207 名のコンベンションルームが備わっている。

建物は、元々昭和 32 年に都立図書館として建設、昭和 36 年に増築された 65 年ほど経過しているものである。区に移管されるにあたり平成 23 年に全面改修されてはいるが、既にそれから 15 年が経過しているため、空調や水回りに不調が出てきているとのことであったが、図書館の再整備手法として、現行の建物や他の遊休施設を活用した整備手法の可能性を感じる事が出来た。

ただし、日比谷図書館の場合は、ミュージアム機能を最初から設計していなかったせいで展示物の保管・管理に苦勞しているとのことであった。担当学芸員の方曰く、「スペース確保をはじめ、史料のための湿度管理等の環境維持は非常に厳しい状況」とのことであった。「既存の区画をそのまま保存庫にしているため、史料保存に不可欠な 24 時間空調にも難があり、史料が傷みやすく、空調の故障も多い。総じてコストも高くなりがちである。桐生市で紙や絹等の史料を展示・保存するならば、最初からそれを熟慮した設計をすべきだと思う」とのことであった。

今期の視察では、公設博物館のない桐生市においてのミュージアム機能との一体整備の検討、及びカフェやレストランの併設などの「滞在型の施設整備のあり方」など、数多くの視点を得ることができた。

桐生市では、例えば、撚糸記念館や歴史記念館など別々に設置されているミュージアム機能を統合し、一つの場所で展示できる図書館にしてもよいだろう。その際には、ぜひとも「上野千綱谷戸遺跡出土品」の展示も実現できるようにしていただきたい。

桐生市で新たな図書館を設計する際には、織都 1,200 年の歴史を後世に伝えるアカデミー機能を備えた図書館としての設計が望まれる。

(了)